

5. 構造物が地下水に及ぼす影響

解析モデルによる現況再現の精度確認とあわせて、今後実施する道路建設と地下水挙動についての予測・検討に本解析モデルを適用することの妥当性を検討した。方法としては、4. で述べた現状の地下水の流れの中の代表的な流動環境（～）において、全く不透水な構造物が地下水の流況に与える影響を解析してみた。

5-1 解析条件

- 構造物の諸元 「全く透水性を有しない角柱状の物体」
 形状：角柱状
 寸法：14m×14m 2個並列
 材料の透水性：なし
- 構造物の設置位置 4ケース（解析ケース1～解析ケース4）
 ・基本的な設置位置：地下水流の代表的な流動環境（4. 参照）のそれぞれに配置
 深さは、通常の地下建設を想定した標準的な深さに設定
- 解析方法 ここでは、全く透水性を有しない構造物が存在する場合の地下水の流れの状況を解析により再現し、構造物が存在しない場合の状況と比較

解析ケース1	の西 東の流動環境に対応	解析ケース3	の北 南の流動環境に対応
解析ケース2	の流動環境に対応	解析ケース4	の東 西の流動環境に対応

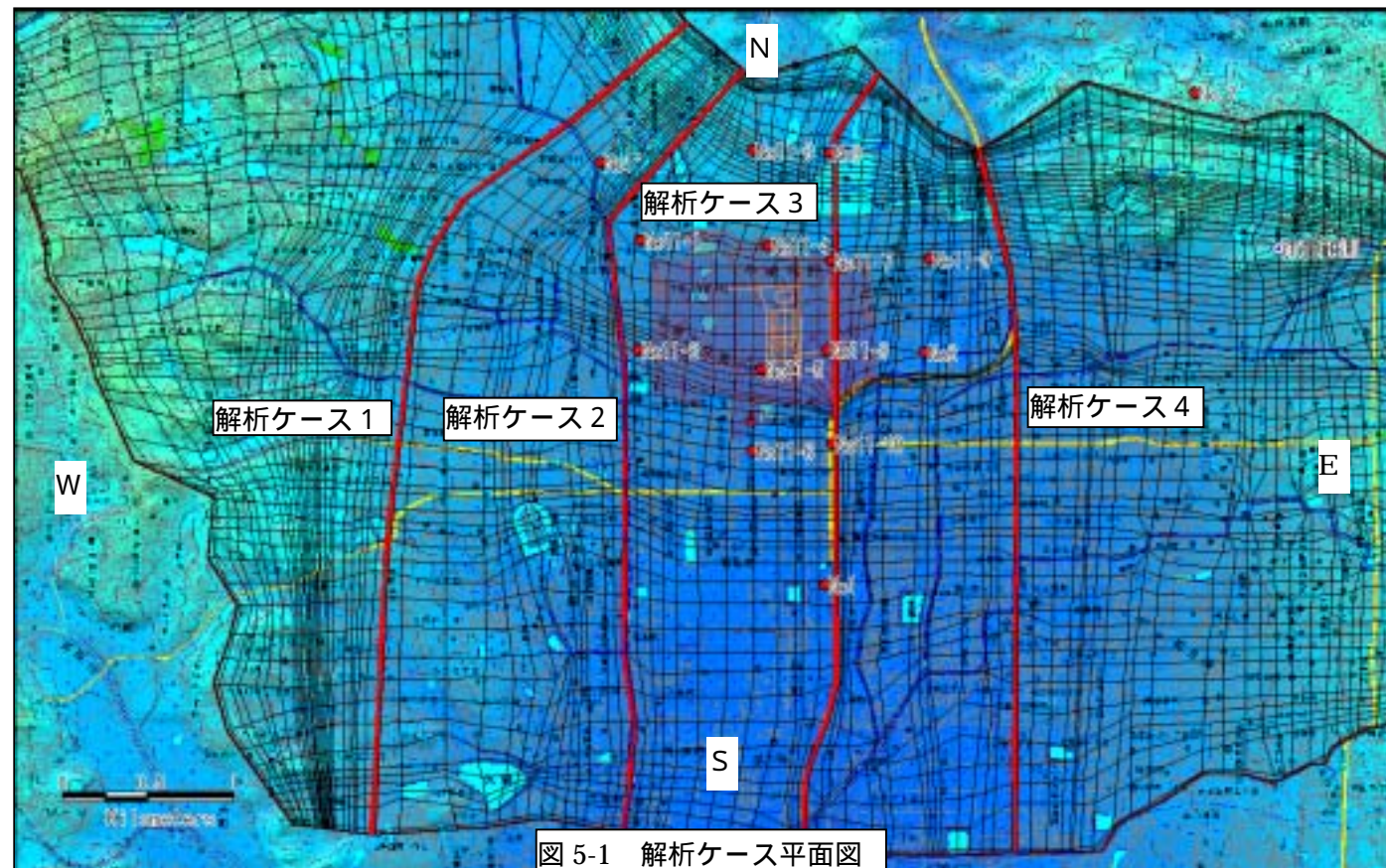


図 5-1 解析ケース平面図

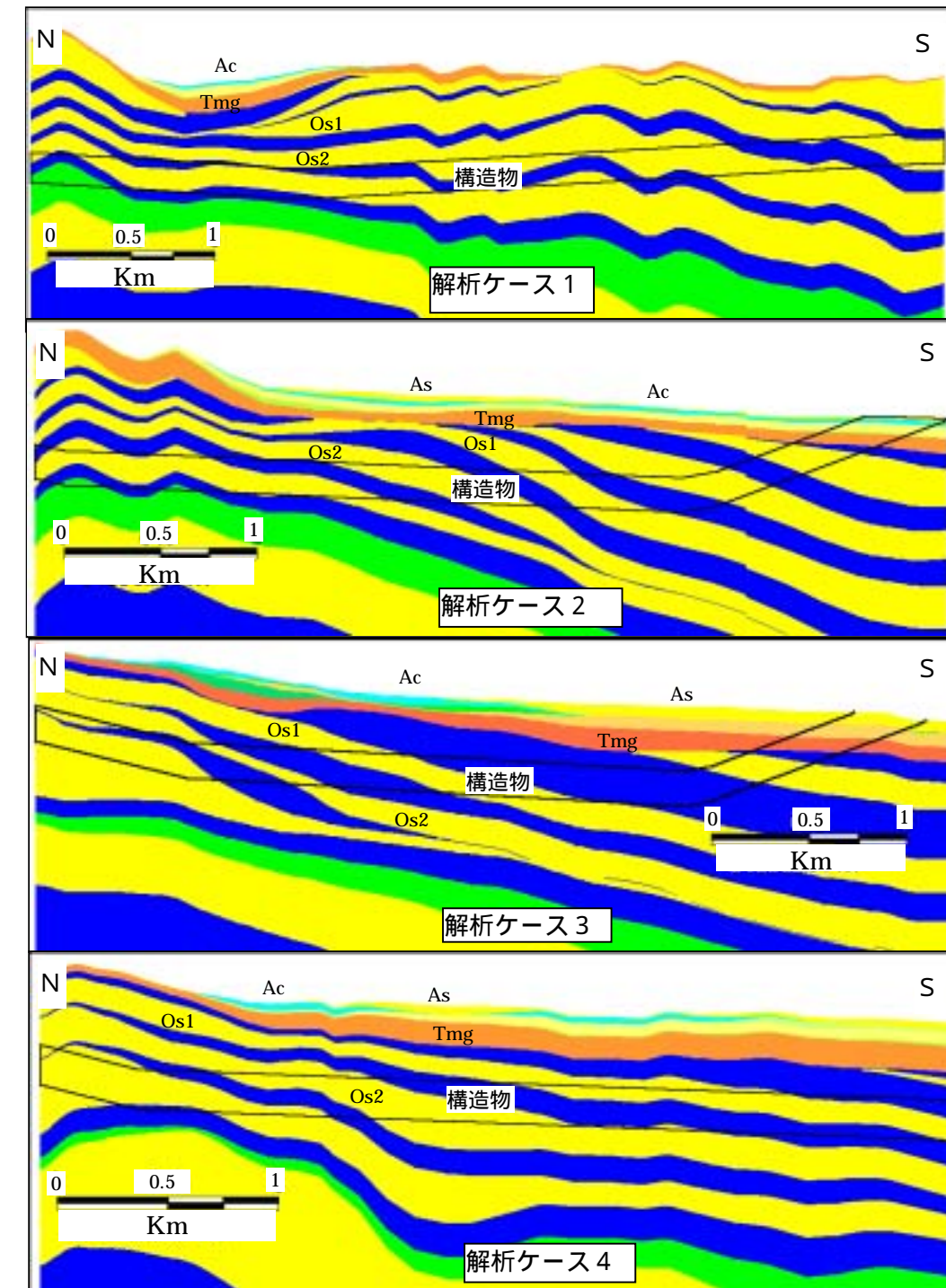


図 5-2 解析ケース断面図